

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	34 / 2014 / 1 - 6 (再編集版)
タイトル	新城中央小学校で生き物調査
著者名	小山内孝、五十嵐正俊、山道忠郎

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

新城中央小学校で生き物調査

元顧問 小山内 孝 第3代 五十嵐正俊 第14代 山道 忠郎

はじめに

近年、青森市の津軽新城駅付近の新城川では川幅の拡幅工事が行われ、親水性を高める階段工も施されたのでした。ところが、流れの方向を無視した机上の設計によるミス工事だったため、度重なる追加工事にもかかわらず、その機能は果たされていないのです。

それでも昨年から新城中央小学校では、総合学習の時間を使って地元の新城川について勉強しようと言うことになったのでした。それで、孫が通学している小山内に協力依頼があったのです。それで、五十嵐、山道の二人も参加して3人で子どもらの調査を手伝うことになったのでした。

昨年度に続き今年も生き物採集の手伝いを行ったので、その結果について書いて見ます。

中小河川の護岸の現状

少し大きな1級河川では緩傾斜の土手が築かれ、河川敷に運動場があったりします。そして、河道はほぼ自然状態で河原もあり、平水時には釣り人も見られます。

ところが、青森県内の中小河川の河川管理のやり方は、文部省の指導とは逆に子どもも大人も川には近づけない様な方針で、河川の改修工事が行われてきた様に思われます。

そして、「良い子は川で遊ばない!」という標語が立てられている始末です。山間から平野部の水田地帯に流れ降ると、大人でも間違っただけで川に落ちたら数百メートル以上這い上がる手摺りすら無いのです。万が一、増水時だったら命の保証もありません。こんな状況が山間部の溪流部を除き、平野部では普通の状態になってしまったのです。

姥名先輩や故坂本先輩が元気でおられた頃、青森県の環境政策課からの依頼で、県内各地の「せせらぎウォッチング」の指導で走り回ったことがありますが、残念ながら何処へ行っても川岸はほとんど垂直のコンクリート壁や石積みで、川に降りられない構造になっていたのです。行った先々ではPTAの方々の協力も有ったりして、梯子を使用したりしながらどうにか川に降りて「川虫」の採取を行ったものでした。



写真1 校庭に集まった生徒たち。お手伝いにお母さんたちも参加(右側)

新城川とは

新城川は青森市内では堤川、野内川に次ぐ大きな河川で、青森市をとり巻く丘陵地帯の梵珠山系の馬神山に源を発する大滝沢(大袋川)が戸門集落付近で新城川に合流し、鶴ヶ坂付近では青森空港付近から流れ出る孫内川とも合流し、さらに数本の支流が合流して新城駅近くでは二股川も合流して、青森平野に流れ降ってから新井田川となって青森市西部で陸奥湾に流入しています。

市街地から少し離れていたために住宅地からの雑排水は比較的少なく、自然度の高い河川でした。しかし、現在上流の戸門集落付近までコンクリート護岸による改修工事が行われ、鶴ヶ坂付近には青森・岩手県境の田子の山中に不法投棄された産業廃棄物を運びこんで焼却処分したRERの焼却場があり、二股川と東北自動車道が交差する付近には青森市の最終処分場の他、現在建築中の新焼却場(青森市)なども設置されています。このため河川環境は急速に悪化して、かつての様な子ども達の遊ぶ姿は観られなくなっています。

それでも、鶴ヶ坂付近の民家の方が捕獲用の罫(ど)を掛けて「モクズガニ」を捕獲していたのを見ることがあります。さらに上流部の大滝沢では「イワナ」も棲息しています。

上流部の森林地帯には「ニホンザル」「カモシカ」の生息が確認され、「ツキノワグマ」が鶴ヶ坂集落付近でハンターによって射殺された事件もあったのです。そして源流部には絶滅危惧種に指定されている「ニホンザリガニ」「ゲンジボタル」「スナヤツメ」などが現在も棲息しています。



図1 新城川と支流・二股川の調査場所 赤い○で表示したAとB地点

2012年、2013年の調査結果

調査には子どもらの他、PTAのお母さんたちにも協力して貰っておこなったのでした。

新城川支流の二股川(地点A) — 2012年

昨年(2012年)は4年生109名(3クラス)と保護者12名が参加して実施されたのですが、上流部(高速道が二股川と交差する付近)にある青森市の最終処分場から漏れ出る汚水のせいなのか新城川に合流する直前でもドブの匂いがする様な状態です。でも、子どもらに川に入って貰う場所は「ゆきわり荘」の少し上流の水田の付近以外に川に降りられる場所は無いです。

その場所は淵から瀬に移行する狭いやや溪流に似た溪相で、子どもらが7~8人も入れば立つ場所が無くなるくらい狭く、新城中央小学校の様なややマンモス校の学校行事として行うには相応しくないと思われましたが、他に場所は無いのですから仕方ありません。それでもネットで掬ってみますと、意外な生き物たちが見つかったのです。昨年(2012年)は、「ヘビトンボ類」2種、「モクズガニ」(稚ガニ)、「ドジョウ」、「ウグイ」(稚魚)、「コヤマトンボ」(ヤゴ)、「コシボソヤンマ」(ヤゴ)、「スナヤツメ」(絶滅危惧種)、「ハグロトンボ」(成虫♀)などが確認されたのでした。



写真2 モクズガニ



写真3 イワナの稚魚



写真4 スナヤツメ



写真5 シマドジョウ



写真6 コヤマトンボのヤゴ



写真7 オニヤンマのヤゴ

新城川-二股川の水生物と植物の記録

Sep.12,2013

新城中央小学校 4年生

調査地点 :新城川支流二股川(ゆきわり荘付近) 、 新城川中流(JR鉄橋下流付近)

☆ 調査地点付近で見られた植物群<記録ノート順>

アオモリアザミ、アメリカオニアザミ、、ミソソバ、アキノエノコログサ、オオバコ、ヘラオオバコ、アカソ、ヨモギ、カヤガモ、イヌコリヤナギ、イノコズチ、ギシギシ、ツユクサ、オランダガラシ、フトイ、ガマ、ヨシ、ススキ、ツリフネソウ、オオイヌタデ、ママコノシリヌグイ、クズ、ヌスビトハギ、タニウツギ、ハリエンジュ、オオイタドリ、イタドリ、ヒメジオン、セリ、ノイバラ、ノブキ、ノブドウ、オミナエシ、アメリカセンダングサ、ブタクサ、オオハンゴンソウ、ハンゴンソウ、タケニグサ、ヒルガオ、イタチノハギ 以上40種が記録された。

☆ 昆虫以外の水生動物群<記録ノート順>

魚類: ドジョウ、シマドジョウ、ウグイ、ジュズカケハゼ、イワナの稚魚、アユ
 円口類: スナヤツメ(成魚;17cm)
 貝類: モノアラガイ、サカマキガイ、カワニナ
 甲殻類: ヨコエビ、モクズガニ、ミズムシ
 環形動物: イトミズ、ヒル

☆ 水生昆虫群<採集標本・記録ノートから>

< 新城川 (J鉄橋下流付近) >

No.	目名	和名	学名	stage	個体数	備
1	蜻蛉	コヤマトンボ	Anotogaster sieboldii Selys	L	1	幼虫
2		アキアカネ	Sympetrum frequens	A	少数	飛翔確認
3		ミヤマアカネ	Sympetrum pedemontanum elatum	A	少数	飛翔確認
4		ウスバキトンボ	Pantala flavescens	A	少数	飛翔確認
5	広翅	ヘビトンボ	Protohermes gdis	L	1	幼虫
6	半翅目	コムズムシ	Sigara substriata	A	1	成虫
7		マツモムシ	Notonecta triguttata Motschulsky	A	2	成虫
8	双翅目	セスジユスリカ	Chironomus yoshimatsui	L	多数	幼虫

stage: A; 成虫 L; 幼虫 P; 蛹

< 二股川 (新城川分岐から100m付近) >

No.	目名	和名	学名	stage	個体数	備
1	蜻蛉目	オニヤンマ	Anotogaster sieboldii Selys	L	1	亜成熟幼虫
2		コシボソヤンマ	Boyeria maclachlani Selys	L	1	3令幼虫
3		コヤマトンボ	Macromia amphigema Selys	L	3	幼虫
4		コサナエ	Trigomphus melampus	L	1	幼虫
5	鞘翅目	ヒメゲンゴロウ	Rhantus suturalis	A	1	成虫
6		マツモムシ	Notonecta triguttata Motschulsky	A	2	成虫
7	半翅目	アメンボ	Aquarius paludum paludum	A	2	成虫

stage: A; 成虫 L; 幼虫 P; 蛹

同定に用いた図鑑: 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説(東海大出版会)
 日本産水生昆虫検索図説(東海大出版会)
 日本産水生昆虫検索図説 科・属・種への検索(東海大出版会)
 日本のゲンゴロウ(森、北山 1993 文一総合出版)

ポケット植物図鑑 里山の草と木(青森・草と木の会)

同定作業、年月日 小山内孝、五十嵐正俊、山道忠郎 Sep.12~14, 2013

新城川支流の二股川(地点A)と新城川中流(地点B) — 2013年

今年(2013年)の「新城川-二股川の水生物と植物の記録」は別表にまとめました。

調査地点付近としてはBも加わりました。ここは新城大橋の下流部分で観察可能な場所が見つ

りました。

2地点(AとB)で確認された植物群は、「アオモリアザミ」など40種でした。

同様に、昆虫以外の水生動物群は、魚類、円口類、貝類、甲殻類、環形動物など15種でした。

水生昆虫群は、新城川中流(地点B)では8種、支流の二股川(地点A)では7種でした。別表にまとめた種以外に、陸生昆虫として「エンマコオロギ」、「オンブバッタ」、「エゾイナゴ」、「オオカマキリ」、「トノサマバッタ」なども確認しました。

生徒達の発表

新城中央小学校では4年生の総合学習の時間を利用して昨年度(2012年)から地元新城川について総合的に学ぶ時間を設定して、今年は2年目の調査です。

4年生3クラスがそれぞれ数班に分かれて、新城川について、歴史、水質、環境、生き物などの聞き取り調査や薬品や器具を使った調査、周りの植物や動物、水中の生き物を分担調査するのです。調査は全員参加方式で、発表も4年生全員がそれぞれの担当分野で調べた事柄を発表するのです。

われわれはこれまで県下全域を、「せせらぎウオッチング」の指導・協力で走り回ったのですが、全員発表形式は初めての経験でした。

われわれ3人もその発表に立ち会い、後日まとめのコメントを求められたのですが、事前の打ち合わせも無く、どうにかコメントを時間内に終了させることができたのは偶然の結果だったと思います。

そして、子どもらの感想の中に、「新城川で魚やカニを採って遊びたい」とか「イワナ釣りのできる川にしたい」、「水遊びのできる川にしたい」などを希望する発言がありました。

しかし、現状の川の状態は子どもらの希望とは程遠く、新城地区住民の一人として行政側への発言・提言の責任を痛感させられたのでした。

近年、河川改修の在り方として「多自然型工法」とか「親水対策」などが云われています。そして、新城川の改修工事は当初の設計では階段から河川敷内に降りて、川の岸を散策出来る様な設計だったと理解しています。ところが、残念ながら実際に行われた工事は流心の方角を無視したため、せっかく作った階段下に流心が当たり、深くえぐられて仕舞ったのです。この点を指摘したのですが、地方行政の担当者には改修工事の失敗を認めようとしないう姿勢だったのです。

筆者の一人五十嵐は県の担当部署に対してメールを送ったのですが、一月ほど経ってから以下の様な返信がありました。

平成25年10月31日

青森県知事

新城川の河川工事は、洪水時の水位を低下させ、浸水被害の防止・軽減を図るため実施しているものです。津軽新城駅周辺の河川の改修工事は、河川を掘削し、水の流れる断面を多くするため、掘削する勾配を高さ1に対し水平0.5の割合で整備しています。また、洪水時の流れから法面を保護するために両岸に護岸を施工しています。

このことにより、付近の住民の方々が川辺に近づくことができなくなっているため、親水施設を整備しました。

このたび、ご提案の中にあつた階段工ですが、これは親水施設の一つとして、川に入るためではなく、散歩のときなどに川の流れを見ながら休息していただくためのものとして整備したものですので、ご理解いただきたいと思ひます。

なお、改修中の河川においては、地域からの要望や安全性を考慮し、必要な箇所については、水の中に入れる施設の整備をしていきます。

青森県企画政策部広報広聴課広聴グループ

〒030-8570 青森市長島1-1-1 TEL:017-734-9138 FAX:017-734-8031

設計上では平水時には住民たちが河川敷に降りて散策を楽しめるように考えていたらしいのですが、残念ながら階段下には流心が直接当たるため、川底は土砂が流されて深くなっているため川には降りられないのです。階段以外の場所では垂直に近いコンクリート護岸のため、手頃な瀬があっても大人も子供も川遊びなどは不可能になっているのです。

(2013.11.25 文責:五十嵐)